

就任のごあいさつ

このたび、2025 年度総会において会長に就任いたしました。これまで本連盟を支えてこられた歴代の会長や役員の皆様のご尽力に改めて敬意を表するとともに、その重責を痛感しております。

本連盟は昭和 25 年、県内の山岳 4 団体と高校登山部 10 校によって発足しました。最も加盟団体が多かった時期には 20 の登山団体、高体連 35 校を数えましたが、近年では会員の高齢化や減少、活動の停滞により退会する団体も増え、かつての登山競技もスポーツクライミング競技に変化し組織内での分業化を図ってきております。

スポーツクライミングに関しては、山形県内ではまだ競技人口が少なく、2023 年度から保護者団体を中心に大会運営を行ってきました。しかし、施設の充実や経費負担の軽減、指導者の育成などの課題があり、誰もが楽しめるスポーツとして継続できるよう、更なる取り組みが必要だと感じています。

新年度の加盟団体は登山団体 7 団体、スポーツクライミング団体 1 団体、高体連 12 校となりました。このような状況下で、山形県山岳連盟の活性化が重要な課題となっています。

私はこの課題に取り組むにあたり、組織の基本理念や活動内容を見つめ直し、次の二点を重視していきたいと考えております。

1. 登山愛好者の利益を追求する活動の推進

連盟の目的である「登山を愛する人々の利益を守る」ための活動をさらに充実させることを目指します。

2. 組織の課題の抽出と改善

昨年度実施した加盟団体や役員関係者へのアンケート結果をもとに、課題を明確にし、具体的な改善策を検討・実施してまいります。

また、本年度は山形県山岳連盟発足 75 周年の節目の年でもあります。これまでの歩みを振り返ると、連盟は会員の協力に支えられ、ときには困難に直面しながらも、試行錯誤を重ね発展してきました。その歴史を記録として残し、次世代へとつなげていくことも重要な使命と考えております。

登山は、安全を最優先としながら、会員同士の交流、技術の向上、自然保護、山岳文化やスポーツの振興など、多岐にわたる意義を持っています。近年では、やまがた百名山の選定や山のグレーディング設定、登山口調査などを県と連携して進めてきました。また、遭難対策としては、山形県冬山遭難救助訓練での指導や、高体連を通じた安全登山技術の指導、会員向け研修会の開催などにも積極的に取り組んでおります。

登山は生涯スポーツとして、無理をせず心身の健康を養う場としても推奨されるものです。今後も加盟団体の皆様と力を合わせ、安全で充実した「山楽活動」を推進していきたいと考えております。

ようやく白い冬から新緑の季節へと移り変わる時期となりました。新役員を代表し、会員の皆様のご健康と安全登山を心よりお祈り申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

2025 年 4 月 1 日

山形県山岳連盟 会長 菅野 享一